

#### 4) プレベーム桁製作及び架設工

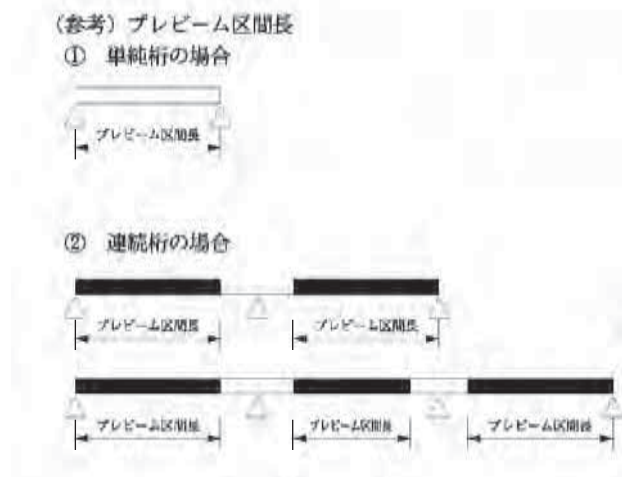
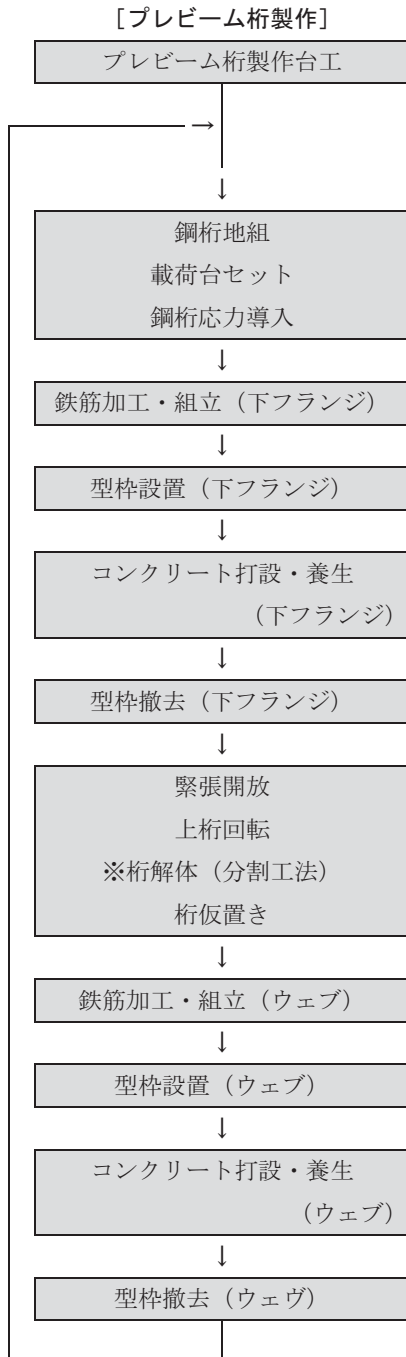
##### 4)-1 プレベーム桁製作工（現場）

###### 1. 適用範囲

本資料は、プレベーム桁の桁本数 30 本程度までの現場における製作工に適用する。

###### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



### 3. プレビーム用桁製作

#### 3-1 プレビーム用鋼桁鋼材費

「第 IV 編 第 7 章橋梁工 1) 鋼橋製作工」による。

#### 3-2 プレビーム用鋼桁製作費

##### (1) 製作工数

「第 IV 編 第 7 章橋梁工 1) 鋼橋製作工」の単純鉄桁による。なお、斜角による補正は適用しない。

##### (2) 製作工労務単価

「第 IV 編 第 7 章橋梁工 1) 鋼橋製作工」による。

##### (3) 溶接材料費及び副資材費

「第 IV 編 第 7 章橋梁工 1) 鋼橋製作工」による。

#### 3-3 プレビーム鋼桁輸送費

「第 IV 編 第 7 章橋梁工 1) 鋼橋製作工」による。

### 4. プレビーム桁製作台工

#### 4-1 プレビーム桁製作台設置基数

プレビーム桁製作台設置基数は、次表を標準とする。

表 4.1 プレビーム桁製作台設置基数

桁本数	基数
4 本以下	1
5～10 本	2
11～30 本	3

#### 4-2 プレビーム桁製作台工

プレビーム桁製作台工は、主桁応力導入用機械の設置・撤去作業であり、次表を標準とする。

表 4.2 プレビーム桁製作台工歩掛 (1 基当り)

名称	単位	数量
橋梁世話役	人	0.5
橋梁特殊工	〃	5.2
普通作業員	〃	2.7

#### 4-3 主桁製作用足場工

主桁製作用足場は、型枠、鉄筋組立、コンクリート打設等の作業に適用する。

表 4.3 主桁製作用足場設置撤去 (1 基主桁 1m 当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.05
とび工	〃	0.21
普通作業員	〃	0.14

## 5. 主桁応力導入工

## 5-1 プレフレクション工

プレビーム用鋼桁の地組立及び応力導入（プレフレクション）作業であり、次表を標準とする。

表 5.1 プレフレクション工歩掛

(1回〔桁2本〕当り)

名称	単位	標準工法	分割工法	標準・分割工法		
		プレビーム 区間長 22m 未満	プレビーム 区間長 22m 未満	プレビーム 区間長 22m 以上 ～30m 未満	プレビーム 区間長 30m 以上～ 40m 未満	プレビーム 区間長 40m 以上
橋梁世話役	人	0.5	1.3	2.7	4.6	6.4
橋梁特殊工	〃	3.0	7.6	10.4	17.8	25.2
普通作業員	〃	1.8	2.6	7.9	13.2	18.7

(注) プレフレクション回数は、以下のとおりとする。

回数＝主桁製作本数/2 本（整数止小数第 1 位切上げ）

## 5-2 鉄筋工

(1) 下フランジ及びウェブ用鉄筋の加工組立作業であり、次表を標準とする。

表 5.2 鉄筋加工・組立歩掛 (1t 当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.6
鉄筋工	〃	4.1
普通作業員	〃	1.4
諸雑费率	%	4

(注) 諸雑費は、結束線、スペーサー等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 鉄筋使用量

鉄筋の使用量は次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1+K) \quad \dots \text{式 5.1}$$

K：ロス率

表 5.3 ロス率 (K)

材料	ロス率
鉄筋	+0.05

### 5-3 型枠工

(1) 下フランジ用型枠（鋼製）設置撤去工

下フランジ用型枠（鋼製）の設置撤去作業であり，次表を標準とする。

表 5.4 下フランジ用型枠設置撤去歩掛（1m<sup>2</sup> 当り）

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.03
型枠工	〃	0.18
普通作業員	〃	0.07
諸雑費率	%	24

(注) 諸雑費は，鋼製型枠損料，剥離材等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) ウェブ用型枠工

ウェブ用型枠（木製）の製作，設置撤去作業であり，次表を標準とする。

表 5.5 ウェブ用型枠（木製）製作設置撤去歩掛（1m<sup>2</sup> 当り）

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.03
型枠工	〃	0.17
普通作業員	〃	0.09
諸雑費率	%	10

(注) 諸雑費は，型枠用防水合板，角材，鉄釘，剥離剤，穴埋め材及び電動鋸，電気ドリルの損料等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

### 5-4 コンクリート工

(1) 下フランジコンクリート及びウェブコンクリートの打設・養生作業であり，次表を標準とする。

表 5.6 コンクリート打設歩掛（1m<sup>3</sup> 当り）

名称	単位	数量	
土木一般世話役	人	0.06	
特殊作業員	〃	0.27	
普通作業員	散水	〃	0.36
	保温	〃	0.44
諸雑費率	%	17	

(注) 諸雑費は，コンクリートポンプ車損料，シート，養生マット，練炭，鋼管パイプ，足場板等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) コンクリートの使用量

コンクリートの使用量は次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad \dots \text{式 5.2}$$

K：ロス率

表 5.7 ロス率 (K)

材料	ロス率
コンクリート	+0.02

## 5-5 リリース工

## (1) リリース工

(緊張解除), 上桁回転, 桁移動仮置き作業で次表を標準とする。

表 5.8 リリース工歩掛

(1回〔桁2本〕当り)

名称	単位	数量			
		プレビーム区間長 22m 未満	プレビーム区間長 22m 以上～30m 未満	プレビーム区間長 30m 以上～40m 未満	プレビーム区間長 40m 以上
橋梁世話役	人	0.5	1.4	1.7	2.0
橋梁特殊工	〃	2.5	6.0	7.4	8.8
普通作業員	〃	0.9	2.8	3.5	4.2

(注) リリース回数は, プレフレクション工と同様とする。

## (2) 主桁解体工 (分割工法)

分割工法にて製作した主桁をリリース後解体する作業であり, 次表を標準とする。

表 5.9 主桁解体工歩掛

(主桁1本当り)

名称	単位	数量	
		プレビーム区間長 30m 未満	プレビーム区間長 30m 以上
橋梁世話役	人	0.1	0.2
橋梁特殊工	〃	0.7	1.2
普通作業員	〃	0.1	0.2

6. 主桁製作用機械損料

(1) プレベーム桁製作に使用する機械損料は、次表を標準とする。

表 6.1 主桁製作用機械損料

区分	名称	規格	単位	数量	供用 日数	摘要	損料額(円/供用日)
製作台工	ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊	台日	1	A	表 6.2	別途
プレフレクション及 びリリース工	ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊	〃	1	C	表 6.4	別途
		排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 35t 吊	〃	1	C		
		排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 45t 吊	〃	1	C		
主桁応力導入用機械		各プレベーム区 間長用	基	製作台 基数	B	表 6.3	(注)
主桁製作用 雑器具	プレフレクショ ン工	高力ボルト締 付け工具	式	1	B	表 6.3	8,300
	鉄筋工	鉄筋切断機	台	1	B	表 6.3	
		鉄筋曲げ器	〃	1	B		
		鉄筋加工台	〃	1	B		
		ガス切断機	〃	1	B		
		電気溶接機	〃	1	B		
	コンクリート工	コンクリート バケット	〃	1	B	表 6.3	
棒状バイブレ ータ		〃	2	B			
主桁解体工	高力ボルト締 付け工具		式	1	—	プレフレ クション 工と重複	
主桁製作用足場			m 日		B	表 6.3	33
プレフレクション工	ドリフトピン 仮締めボルト	φ 24.5×150	本		B	表 6.5	110(円/100 本・供用日)
		M22×90	〃		B	表 6.3	50(円/100 本・供用日)
発動発電機		ディーゼルエン ジン駆動・ 排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 37/45kVA	台日	1	B	表 6.3	別途

(注) 主桁応力導入用機械 (フレーム類, ジャッキ, ポンプ等) の供用 1 日当り損料額は下表による。

プレベーム区間長	損料額
L < 22m	11,300
22m ≤ L < 30m	15,300
30m ≤ L < 40m	22,200
L ≥ 40m	31,600

(2) 供用日数

A=製作台設置・撤去日数

表 6.2 製作台工日数

工種	日数
製作台工	1.2×製作台基数

B：主桁応力導入日数（プレフレクション～リリース）

=製作台回転数×応力導入1回当り日数×供用日数率

・製作台回転数 =  $\frac{n}{2 \times S}$  (少数1位切上, 整数止)

n：主桁製作本数

S：製作台設置基数

・応力導入1回当り日数

表 6.3 応力導入1回当り日数

プレビーム区間長区分	標準工法	分割工法
22m 未満	12.0	12.5
22m 以上 30m 未満	15.0	15.5
30m 以上 40m 未満	17.5	18.5
40m 以上	20.0	21.0

・供用日数率=1.5

C：プレフレクション及びリリース工ラフテレーンクレーン計上日数

表 6.4 ラフテレーンクレーン計上日数

(プレフレクション及びリリース1回当り)

工種		ラフテレーンクレーンの規格		
		排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 35t 吊	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 45t 吊
プレフレクシ ョン工	プレビーム区間長 30m 未満	2.5	—	—
	” 30m 以上～40m 未満	0.5	2.0	—
	” 40m 以上	1.0	—	2.0
リリース工	プレビーム区間長 30m 未満	—	2.0	—
	” 30m 以上～40m 未満	—	—	2.0
	” 40m 以上	0.5	—	2.0

(3) ドリフトピン及び仮締めボルト所要数量

プレベーム用鋼桁の地組立用のドリフトピン及び仮締めボルトの所要量は、次表を標準とする。

表 6.5 ドリフトピン及び仮締めボルト

名称	規格	単位	プレベーム区間長 22m 未満 添接なし	プレベーム区間長 22m 未満 (分割工法) 及びプレベーム区間長 22m 以上
ドリフトピン	φ 24.5×150	本	—	(本/t) $31.9 \times \text{鋼桁質量} \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{3}$ (2 本分)
仮締めボルト	M22×90	〃	—	〃 $\times \frac{1}{3} \times \frac{2}{3}$

7. 単価表

(1) プレベーム桁製作台工 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	0.5	表 4.2
橋梁特殊工		〃	5.2	〃
普通作業員		〃	2.7	〃
諸雑費		式	1	
計				

(2) 主桁製作用足場工 1 基主桁 1m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.05	表 4.3
とび工		〃	0.21	〃
普通作業員		〃	0.14	〃
諸雑費		式	1	
計				

(3) プレフレクション工 1 回 (桁 2 本) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.1
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	
計				

(4) 鉄筋工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.6	表 5.2
鉄筋工		〃	4.1	〃
普通作業員		〃	1.4	〃
鉄筋	各種	t	1.05	1×(1+ロス率)表 5.3
諸雑費		式	1	表 5.2
計				



## (5) 下フランジ用鋼製型枠設置撤去工 1m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.03	表 5.4
型枠工		〃	0.18	〃
普通作業員		〃	0.07	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

## (6) ウェブ用木製型枠製作設置撤去工 1m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.03	表 5.5
型枠工		〃	0.17	〃
普通作業員		〃	0.09	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

## (7) コンクリート工 1m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 5.6
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
生コンクリート		m3	1.02	1×(1+ロス率)表 5.7
諸雑費		式	1	表 5.6
計				

## (8) リリース工 1回 (桁 2本) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.8
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (9) 主桁解体工 (分割工法) 主桁 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.9
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (10) 主桁製作用機械損料 1 工事当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
移動式クレーン	各種	台・日		必要に応じ計上表 6.1
主桁応力導入用機械		基		表 6.1
主桁製作用雑器具		日		〃
主桁製作用足場		m・日		〃
ドリフトピン		本		必要に応じ計上表 6.1
仮締めボルト		本		〃 〃
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 排出ガス対策型(第 1 次基準値) 37/45kVA	日		表 6.1
諸雑費		式	1	
計				

### 4)-2 プレベーム桁架設工

#### 1. 適用範囲

本資料は、プレベーム桁の架設工に適用する。

#### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



#### 3. 架設工

##### 3-1 支承工

支承工は、「第 IV 編 第 7 章橋梁工 9)PC 橋架設工」6. 支承工による。

##### 3-2 トラッククレーンによる架設

###### (1) トラッククレーンによる架設歩掛

トラッククレーンによる架設作業に適用し、次表を標準とする。

表 3.1 トラッククレーンによる架設歩掛

架設部材質量	トラッククレーン 規格・台数	1 日当り 架設質量 (t/日)	編成人員 (人/日)			
			橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	諸雑費率 (%)
20t 未満	油圧伸縮ジブ型 100t 吊×1 台	125	1	5	3	14
20t 以上～35t 未満	油圧伸縮ジブ型 160t 吊×1 台	190	1	7	3	
35t 以上～60t 以下	油圧伸縮ジブ型 120t 吊×2 台	225				

(注) 1. 本歩掛には、架設に伴う仮締めを含む。

2. 歩掛は、トラッククレーンにより桁運搬車、又は仮置き場から直接吊上げ所定の位置に架設出来る場合のものであり、架設現場までの小運搬（2次運搬）を伴う場合は、小運搬作業費を別途計上する。

3. 歩掛は架設高さ 10m 未満、作業半径は橋梁下からの架設の場合は 10m 程度、橋台上背面からの架設の場合は 10～16m 程度の標準値であり、現場条件により架設用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、現場条件に適した規格を選定して積算することが出来る。

4. トラッククレーン、トレーラ等の運搬路及び足場の整備に要する費用は、必要に応じ別途計上することが出来る。

5. トラッククレーンは、賃料を標準とする。また、運転日数は次式による。

トラッククレーン運転日数＝架設日数

6. 諸雑費は、仮締めボルト、ドリフトピン、架設工具損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 3-3 架設桁による架設

## (1) 架設桁による架設歩掛

架設桁（上路式，1組桁）と移動式クレーン併用による架設作業に適用し，次表を標準とする。

表 3.2 架設桁（上路式，1組桁）と移動式クレーン併用による架設歩掛

支間(m)	25m 以下	30m 以下	35m 以下	40m 以下	45m 以下	編成人員 (人/日)		
						橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
1 日当り架設質量(t)	30	60	90	120	150	1	5	3
移動式クレーン	2 台/日	2 台/日	2 台/日	2 台/日	2 台/日			

(注) 1. 上表は，桁製作場又は桁仮置き場から横取り，台車積込み，架設場まで桁を引出し（約 200m まで）架設，移動式クレーン（相吊）について横取り，据付けまでの一連作業の場合である。

2. 横取り用の移動式クレーンの規格は，桁質量及び現場条件を考慮のうえ決定するものとする。

## (2) 架設機械据付・解体歩掛

架設機械据付・解体歩掛は，「第 IV 編 第 7 章橋梁工 9) PC 橋架設工」の 4. 架設桁による架設による。

## (3) 架設機械移動歩掛

架設機械移動歩掛は，「第 IV 編 第 7 章橋梁工 9) PC 橋架設工」の 4. 架設桁による架設による。

## (4) 軌道設置・撤去歩掛

軌道設置・撤去歩掛は，「第 IV 編 第 7 章橋梁工 9) PC 架設工」の 4. 架設桁による架設による。

## (5) 架設機械器具経費

架設機械は，移動式クレーン，架設桁設備，引出し設備，軌道設備とする。

供用日数は次式による。なお，これにより難しい場合は，別途考慮する。

$$\text{供用日数} = (\text{架設日数} + \text{架設機械据付・解体日数} + \text{架設機械移動日数} + \text{軌道設置・撤去日数}) \times 1.5$$

また，移動式クレーン（架設用）は賃料を標準とし，運転日数は次式による。

$$\text{移動式クレーン運転日数} = \text{架設日数}$$

諸雑費は，仮締めボルト，ドリフトピン，架設工具損料及び電力に関する経費等の費用であり，移動式クレーンを除く架設機械器具経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.3 諸雑费率 (%)

支間(m)	25 以下	30 以下	35 以下	40 以下	45 以下
諸雑费率 (%)	53	44	37	27	23

3-4 地組工

地組工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.4 地組工歩掛

日当り施工量 Dg (t/日)	編成人員 (人/日)			諸雑費率 (%)
	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	
$Dg = \frac{G}{0.01(G+100)}$	1	5	1	18

G：地組質量 (t)

- (注) 1. 本歩掛は、地組に伴う仮締めを含む。  
 2. 地組質量は、地上組立をすべき部材の質量である。  
 3. 地組工に本締め工は含まない。  
 4. 諸雑費は、仮締めボルト、ドリフトピン、架設工具損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 5. クレーンについては、架設用移動式クレーンを兼用する。また、移動式クレーンは賃料を標準とし、運転日数は次式による。  
     運転日数＝地組日数  
 6. 日当り施工量 Dg は小数第 1 位までとし、2 位を四捨五入する。

3-5 本締め工

本締め工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.5 本締め工歩掛

日当り施工量 Dq (本/日)	編成人員 (人/日)			諸雑費率 (%)
	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	
$Dq = \frac{31.9 \times W}{0.017 \times W + 0.19}$ ただし上限を 1,950 本とする。	1	5	1	17

W：主桁総質量 (t)

- (注) 1. 本歩掛は、地組及び架設の際の本締め工に適用する。  
 2. 諸雑費は、架設工具損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 3. 日当り施工量 Dg は小数第 1 位までとし、2 位を四捨五入する。  
 4. 本締め用ボルト使用総本数は、次式を標準とする。  
     使用総本数＝31.9×W  
     なお、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3-6 横桁取付工

横桁を取付ける作業で、次表を標準とする。

表 3.6 横桁取付

日当り作業量 (箇所/日)	編成人員 (人/日)			諸雑費率 (%)
	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	
17	1	4	1	20

- (注) 1. 横桁取付用ボルト使用総本数は、次式を標準とする。  
     使用総本数＝12.4×(横桁数量)  
     なお、これにより難しい場合は、別途考慮する。  
 2. 諸雑費は、架設工具損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 3-7 足場工及び防護工

足場工及び防護工は、「第 IV 編 第 7 章橋梁工 9) PC 橋架設工」5. 横組工 5-5 足場工及び防護工による。

## 3-8 局部プレストレス工

主桁を分割し、架設した場合において桁架設後に行う添接箇所への応力導入工歩掛は次表を標準とする。

表 3.7 局部プレストレス工歩掛 (1 径間当り)

名称	規格	単位	数量
橋梁世話役		人	1
橋梁特殊工		〃	4
普通作業員		〃	1
諸雑费率		%	16

(注) 諸雑費は、カウンターウエイトの賃料等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 3-9 床版・横桁工

床版・横桁工は、「第 IV 編 第 7 章橋梁工 5) 鋼橋床版工」による。

## 4. 単価表

(1) 架設工 (トラッククレーンによる架設) 架設部材質量 10t 当り単価表  
(架設部材質量 : 20t 未満の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/A×1	表 3.1
橋梁特殊工		〃	10/A×5	〃
普通作業員		〃	10/A×3	〃
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 100t 吊	台・日	10/A	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) A=1 日当り架設質量

(架設部材質量 : 20t 以上 35t 未満の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/A×1	表 3.1
橋梁特殊工		〃	10/A×7	〃
普通作業員		〃	10/A×3	〃
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 160t 吊	台・日	10/A	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) A=1 日当り架設質量

(架設部材質量：35t 以上 60t 以下の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/A×1	表 3.1
橋梁特殊工		〃	10/A×7	〃
普通作業員		〃	10/A×3	〃
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	台・日	10/A×2	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) A=1 日当り架設質量

(2) 架設工 (架設桁による架設) 架設部材質量 10t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/B×1	表 3.2
橋梁特殊工		〃	10/B×5	〃
普通作業員		〃	10/B×3	〃
移動式クレーン	油圧伸縮ジブ型 各種	台・日	10/B×2	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) B=1 日当り架設質量

架設機械器具経費 (架設桁による架設) 一式当り内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
架設桁設備		日	C×1.5	
引出し設備		〃	〃	
軌道設備		〃	〃	
諸雑費		式	1	表 3.3
計				

(注) C=架設日数+架設機械据付・解体日数+架設機械移動日数+軌道設置・撤去日数

(3) 地組工 10t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/Dg×1	表 3.4
橋梁特殊工		〃	10/Dg×5	〃
普通作業員		〃	10/Dg×1	〃
移動式クレーン	油圧伸縮ジブ型 各種	台・日	10/Dg	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) Dg=1 当り地組質量

## (4) 本締め工 100 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	100/D <sub>q</sub> ×1	表 3.5
橋梁特殊工		〃	100/D <sub>q</sub> ×5	〃
普通作業員		〃	100/D <sub>q</sub> ×1	〃
本締めボルト		本	100	
諸雑費		式	1	表 3.5
計				

(注) D<sub>q</sub>=1 当り本締め本数

## (5) 横桁取付工 10 箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	10/E×1	表 3.6
橋梁特殊工		〃	10/E×4	〃
普通作業員		〃	10/E×1	〃
取付用ボルト		本	124	
諸雑費		式	1	表 3.6
計				

(注) E=1 日当り横桁取付数

## (6) 局部プレストレス工 1 径間当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	1	表 3.7
橋梁特殊工		〃	4	〃
普通作業員		〃	1	〃
諸雑費		式	1	〃
計				



5) 鋼橋床版工

本資料は、鋼橋床版工のうち足場工及び防護工、型枠工、鉄筋工、コンクリート工、養生工に適用するものとする。

1. 足場工及び防護工

「第 IV 編 第 7 章 3) 鋼橋架設工 14. 足場工、防護工及び登り棧橋工」による。

2. 型枠工

型枠材料は合板製とし、鋼製ビームによる吊金具支保を標準とする。

2-1 型枠製作・設置・撤去歩掛

型枠製作・設置・撤去及びケレン、はく離剤塗布歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 型枠製作・設置・撤去歩掛 (型枠面積 100m<sup>2</sup> 当り)

名称	規格	単位	数量	償却率
土木一般世話役		人	5.0	
型枠工		〃	19.0	
普通作業員		〃	13.0	
型枠用合板	JAS 規格板面品質 B-C 12×900×1800mm	枚	70.5	33%
正割材	杉 6×6cm	m <sup>3</sup>	2.6	33%
諸雑費率		%	7 (12)	

(注) 1. 諸雑費は、はく離剤、セパレータ、フォームタイ、パイプサポート、吊チェーン、ターンバックル、パイプ、鋼製ビームの経費及び現場で吊金具（ボルトを含む）取付を行う場合の費用であり、労務費、材料費の合計額（補正值を含む）に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
2. 吊金具等取付を現場で行う場合の諸雑費率は（ ）書きの値とする。

2-2 橋梁型式による補正係数

補正係数は、労務、材料及び鋼製ビームの数量に乗ずる。

補正係数を加味した数量 = 数量 × (1 + K)

K = K1 + K2 K1, K2 : 補正係数

表 2.2 補正係数

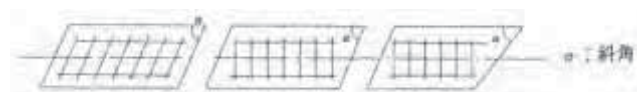
橋梁型式		補正係数
K1	斜橋 (斜角 α = 75° 未満)	0.05
K2	曲線橋 (曲率半径 R = 500m 未満)	0.05

(1) 斜橋による補正

橋端部が斜である橋梁（平面的に斜である橋梁（図-1 参照））では斜角（α）によるものとし、一番小さい斜角で対処する。

また、橋端部で斜角が一方の場合のみでも補正の対象とする。

図 2-1 鉄橋の例



(2) 曲線橋による補正

曲線半径 (R) は、道路中心線による。

(3) 補正係数がスパンによって異なる場合は、スパンごとの補正係数を平均する。なお、補正係数は小数点以下第 3 位を四捨五入する。

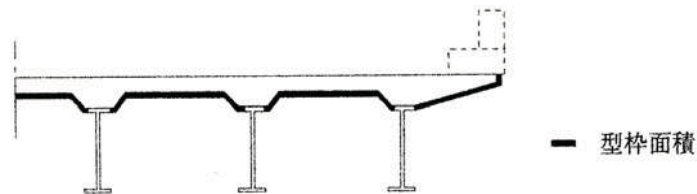
$$\text{平均補正係数} = \frac{L1 \times K1 \times n1 + L2 \times K2 \times n2 + \dots + Lm \times Km \times nm}{L1 \times n1 + L2 \times n2 + \dots + Lm \times nm}$$

L : 桁長                      K : 補正係数                      n : 径間数

2-3 型枠面積

橋梁床版工の型枠工の面積数量は、下図のとおり計上する。

図 2-2 標準床版断面



2-4 仮設支保材供用日数

仮設支保材（鋼製ビーム等）の供用日数は 42 日を標準とする。

3. 鉄筋工

鉄筋加工組立は「第 VI 編 第 2 章 1)-1 鉄筋工」による。

4. コンクリート工

コンクリート工は「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」による。

5. 養生工

養生工歩掛は、次表を標準とする。

表 5.1 養生工歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

名称	規格	単位	数量	償却率
普通作業員		人	1.6	
養生マット		m <sup>2</sup>	110	25%

(注) 1. 養生面積は床版面積とする。

2. 養生工は、養生履材の被覆、水散布養生程度のものとし、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は別途積算する。

## 6. 単価表

(1) 型枠工 100m<sup>2</sup> 当り単価表 (支保工を含む)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	5.0	表 2.1×(1+K)
型枠工		〃	19.0	〃
普通作業員		〃	13.0	〃
型枠用合板	JAS 規格板面品質 B-C 12×900×1800mm	枚	70.5	〃
正割材	杉 6×6cm	m <sup>3</sup>	2.6	〃
諸雑費		式	1	表 2.1
計 【S3034】				

- (注) 1. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。  
 2. 地覆型枠が必要な場合は、別途計上する。  
 3. 足場工が必要な場合は、別途計上する。  
 4. K: 橋梁型式による補正係数

(2) 養生工 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	1.6	表 5.1
養生マット		m <sup>2</sup>	110	〃
諸雑費		式	1	
計 【S3032】				

- (注) 諸雑費にはポンプ運転経費等を含む。

## 6) グレーチング床版架設工及び足場工

### 1. 適用範囲

本資料は、鋼橋床版工のうち、グレーチング床版（ソリッドタイプ）による橋梁床版架設工で、床版標準ブロック質量 2000kg 以下の架設に適用する。

### 2. 施工歩掛

#### 2-1 床版架設歩掛の適用範囲

歩掛には、床版架設、継手筋挿入、引出し、結束、床版継手設置、地覆型枠外側プレート及び支持板取付けを含み、地覆鉄筋、各部補強鉄筋等現場筋の配筋、排水桝（管）、伸縮継手、高欄等の設置は、別途計上する。

#### 2-2 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 2.1 機種の選定

機械名	規格	摘要
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	架設面積 1000m <sup>2</sup> 未満
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値)16t 吊	架設面積 1000m <sup>2</sup> 以上

(注) 1. クレーンの規格は床版上より架設する場合であり現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは賃料とする。

#### 2-3 日当り編成人員

床版架設作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 2.2 日当り編成人員 (人)

橋梁世話役	橋梁特殊工	溶接工	普通作業員
1	2	1	3

## 2-4 床版架設歩掛

(1) 床版 100m<sup>2</sup> 当り架設日数

床版 100m<sup>2</sup> 当り架設日数は、次表を標準とする。

表 2.3 床版 100m<sup>2</sup> 当り架設日数 (日/100m<sup>2</sup>)

床版架設面積 (m <sup>2</sup> )	100m <sup>2</sup> 当り架設日数 (日/100m <sup>2</sup> )
1000m <sup>2</sup> 未満	$y = (2.87 - \frac{1.47}{1000} \cdot A) \cdot k$
1000m <sup>2</sup> 以上	$y = 1.4 \cdot k$

(注) y : 床版 100m<sup>2</sup> 当り架設日数 (日/100m<sup>2</sup>)

y は小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位止とする。

A : 床版架設面積 (m<sup>2</sup>)

A = 地覆外縁間距離 × 橋長とする。

k : 床版標準ブロック質量による係数 (表 2.4)

## (2) 床版標準ブロック質量による係数 (k)

床版標準ブロック質量による係数は、次表を標準とする。

表 2.4 床版標準ブロック質量による係数

床版標準ブロック質量	k
500kg 未満	1.1
500kg 以上 1000kg 未満	1.0
1000kg 以上 2000kg 以下	0.9

## (3) 諸雑費

諸雑費は、組立結束線、溶接棒、電気溶接機運転経費等の費用であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 2.5 諸雑費率 (%)

床版架設面積 (m <sup>2</sup> )	1000m <sup>2</sup> 未満	1000m <sup>2</sup> 以上
諸雑費率	7	5

## 2-5 コンクリート工

床版コンクリート打設は、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」による。なお、打設はコンクリートポンプ車打設 (ブーム式) を標準とし、構造物種別は鉄筋構造物とする。また、地覆コンクリート打設は、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」により別途計上する。

## 2-6 養生工

「第 IV 編 第 7 章 5) 鋼橋床版工」により別途計上する。

## 2-7 鉄筋工

地覆鉄筋及び各部補強鉄筋等は、「第 VI 編 第 2 章 1)-1 鉄筋工」により別途計上する。ただし、床版継手筋は架設歩掛に含まれるため計上しない。(材料費のみ別途計上する。)

## 2-8 型枠工

片側施工等で端部型枠が必要な場合は、「第 II 編 第 4 章 2)-1 型枠工」の小型構造物を適用する。なお、地覆内側型枠は、「第 II 編 第 4 章 2)-1 型枠工」により別途計上する。ただし、地覆型枠外側プレートは架設歩掛に含まれるため計上しない。

## 2-9 足場及び防護工

「第 IV 編 第 7 章 3) 鋼橋架設工」の床版足場を適用する。

3. 単価表

(1) 床版架設 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	y×1	表 2.3
橋梁特殊工		〃	y×2	〃
溶接工		〃	y×1	〃
普通作業員		〃	y×3	〃
トラッククレーン又はラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊 又は 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 16t 吊	日	y	表 2.1, 表 2.3
諸雑費		式	1	表 2.5
計【S3070025】				

(2) 材料費 (グレーチング床版) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
グレーチング床版	本体 (異形) パネル	t	1	
諸雑費		式	1	
計				

(3) 材料費 (地履型枠外側プレート) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
地履型枠外側プレート		t	1	
諸雑費		式	1	
計				

(4) 材料費 (グレーチング床版ハンチ部) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ハンチ部		t	1	
諸雑費		式	1	
計				

## 7) ポストテンション桁製作工

### 1. 適用範囲

本資料は、ポストテンション単純T桁（支間長 45m 以下の PC 定着工法）の現場製作工に適用する。セメントは早強セメントを標準とする。

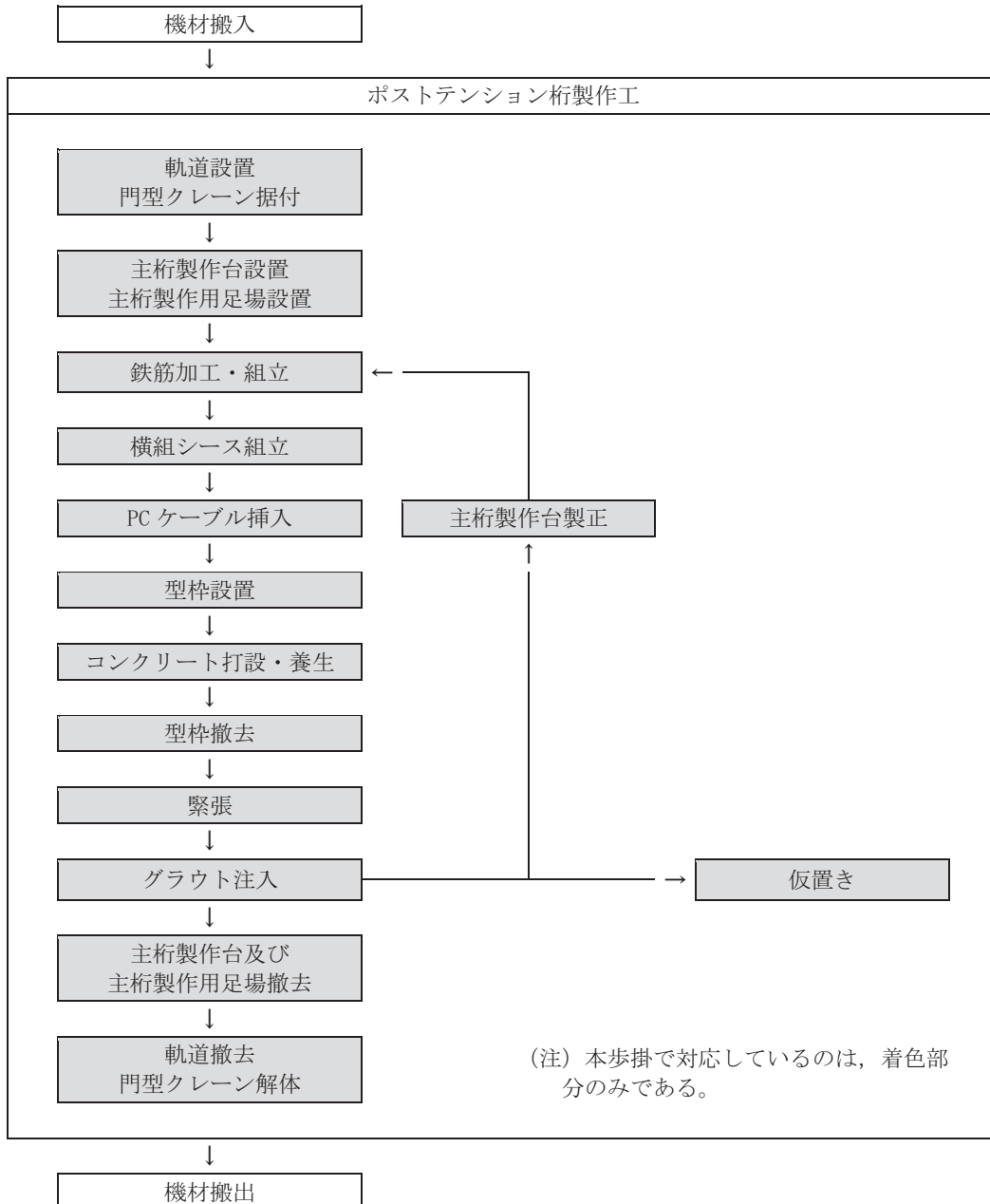
なお、本資料は A 又は B 活荷重桁に適用する。

(参考) 標準断面図



### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



## 3. 施工歩掛

## 3-1 ポストテンション桁製作工

ポストテンション桁製作工とはフロー図に示す通り、門型クレーンの設置からポストテンション T 桁の製作にかかる一連の作業であり、歩掛は次表を標準とする。

表 3.1 ポストテンション桁製作工歩掛 (コンクリート 10m<sup>3</sup> 当り)

橋梁世話役 (人)	橋梁特殊工 (人)	土木一般世話役 (人)	特殊作業員 (人)
1.3	4.5	1.7	1.5
鉄筋工 (人)	型枠工 (人)	とび工 (人)	普通作業員 (人)
5.1	3.9	0.6	9.3

- (注) 1. コンクリート打設方法は、門型クレーン打設を標準とする。  
 2. コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用出来る。  
 3. 重量台車による縦移動仮置きは、別途積算とする。

## 3-2 諸雑費

諸雑費は、鉄筋、シース等の材料費、ポストテンション桁製作工にかかわる消耗品費、電力に関する経費等であり、表 3.1 の労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 3.2 諸雑費率 (%)

諸雑費率	33
------	----

## 4. 使用材料

使用材料として計上するものはコンクリート、PC ケーブル、定着具のみとし、コンクリート、PC ケーブルの使用量は次式による。また、定着具は必要数量計上する。なお、PC ケーブルの切断ロス等のスクラップ控除しない。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{式 4.1}$$

K : ロス率

表 4.1 ロス率 (K)

材料	ロス率
コンクリート	+0.02
PC ケーブル	+0.05



5. 機種の選定等

5-1 機種の選定

ポストテンション桁製作工に、使用する機械・規格は次表を標準とする。

表 5.1 機械・規格

(1 工事当り)

工種	名称	規格	単位	台数	供用日数	損料額	
						規格	円/供用日
緊張工	緊張ジャッキ・ポンプ	各種	組	2	A	1300kN (130t) 型	5,000
						2200kN (225t) 型	5,800
						3100kN (320t) 型	8,600
門型クレーン工	門型クレーン 電動ホイスト	3.0t 吊	基 台	1	A A		11,000
		3.0t 吊用		1			
主桁製作用型枠	鋼製型枠	ポストテンション桁用	m <sup>2</sup> ・日	必要量	A	1 組当りの型枠面積を計上	393

(注) 1. A=供用日数

$$=0.16 \times V \times \alpha + 20$$

V : コンクリート量 (m<sup>3</sup>)

α : 供用日補正係数

供用日補正係数は、下記による。

	支間長 L(m)		
	L ≤ 35	35 < L ≤ 40	40 < L ≤ 45
α	1.0	0.73	0.60

- 鋼製型枠面積の算出にあたっては、側部及び端部面積のみとし、定着部面積は考慮しないものとする。なお、底型枠は主桁製作台を利用する。
- 鋼製型枠は 1 組を標準とし必要数量を計上する。

5-2 雑機械費

雑機械費は、ポストテンション桁製作工に必要な表 5.1 の機械器具を除く雑機械の損料等の経費であり、表

5.1 機械器具損料の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 5.2 雑機械費率 (%)

雑機械費率	59
-------	----

## 6. 単価表

## (1) 主桁 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.1×主桁 1 本当りコンクリート量/10
橋梁特殊工		〃		〃
土木一般世話役		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
鉄筋工		〃		〃
型枠工		〃		〃
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4.1
PC ケーブル		kg		〃
定着具	緊張側用	組		必要数量計上 (PC ケーブル本数×2)
諸雑費		式	1	表 3.2
計 【S3200】				

## (2) 機械器具損料 1 工事当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
緊張ジャッキ		組・日		表 5.1
門型クレーン	3t 吊 (電動ホイスト含む)	日		〃
主桁製作用 鋼製型枠		m <sup>2</sup> ・日		〃
雑機械費		式	1	表 5.2
計 【S3202】				

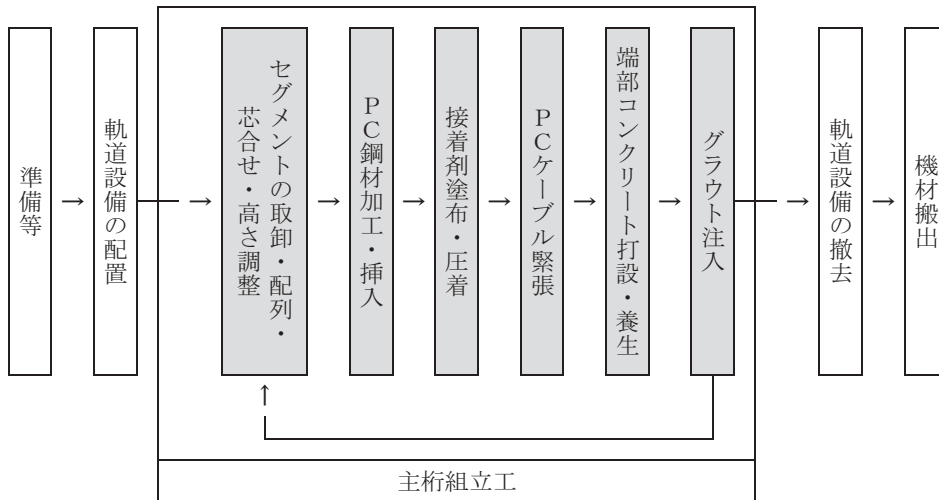
### 8) プレキャストセグメント主桁組立工

#### 1. 適用範囲

本資料は、プレキャストセグメント主桁組立工（A 又は B 活荷重桁）の主桁組立に適用する。（主桁質量 160t 程度以下）。  
 なお、架設工は「第 IV 編 第 7 章 9)PC 橋架設工」により別途積算する。

#### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

#### 3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機械・規格

機械名	セグメント質量(t)	クレーン車	規格
移動式クレーン	～11.0	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 16t 吊
	11.1～12.0	〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊
	12.1～15.0	〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊
	15.1～17.0	〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 35t 吊
	17.1～19.0	〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 45t 吊
	19.1～21.0	〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50t 吊
	21.1～24.0	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 100t 吊
	24.1～33.0	〃	油圧伸縮ジブ型 120t 吊

(注) 1. 移動式クレーン規格は、取卸用の標準であり、上表以外の場合は別途選定出来る。

2. 移動式クレーンは、賃料とする。

3. 移動式クレーンの選定について、移動式クレーンが、トレーラと並列に配置される現場、もしくは、架設桁の背後に移動式クレーン回転部のすぐ側まで寄れる現場を標準としている。作業現場が上記により難しい場合は別途積算する。

4. セグメント質量が均一でない場合、セグメントの最大質量で移動式クレーンを選定する。

## 4. 施工歩掛

## 4-1 プレキャストセグメント主桁組立工

プレキャストセグメント主桁組立工とはフロー図の示す通り、セグメントの取卸から緊張、グラウト注入までのプレキャストセグメント桁の組立にかかる一連の作業であり、歩掛は次表を標準とする。

表 4.1 プレキャストセグメント主桁組立工歩掛 (桁 1 本当たり)

名称	単位	数量	
		3 分割	5 分割
橋梁世話役	人	2.4	3.2
橋梁特殊工	〃	10.1	13.4
普通作業員	〃	8.2	10.3

(注) 軌道設備の有無にかかわらず歩掛を適用出来る。

## 4-2 諸雑費

諸雑費は、接着剤、グラウト、コンクリート(端部)、型枠用合板、剥離剤等の材料費、表 6.1 の機械器具を除く雑機械の損料等の経費、プレキャストセグメント桁組立に必要な消耗品費、電力にかかわる経費等であり表 4.1 労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 4.2 諸雑费率 (%)

	3 分割	5 分割
諸雑费率	14	21

(注) 軌道設備の有無にかかわらず諸雑费率を適用出来る。

## 5. 使用材料

使用材料として計上するものは、PC ケーブルのみとし使用量は次式による。なお、定着装置は製作に含まれるので計上しない。

$$\text{使用量(m)} = \text{設計量(m)} \times (1+K) \quad \dots\dots\text{式 5.1}$$

表 5.1 ロス率 (K)

材料	ロス率
PC ケーブル	+0.04

(注) 上表のロス率は PC ケーブルの切断ロス、つかみ代等の補正でありスクラップ控除はしない。

## 6. 機械経費

表 6.1 機械器具

(1 工事当り)

名称	規格	数量	単位	供用日数	摘要
移動式クレーン	油圧伸縮ジブ型 各種	1	台	※D'	
緊張ジャッキ・ポンプ		2	組	D	

(注) 1. 供用日数 (D) は、次式による。

$$D = 0.44 \times \text{分割数} \times \text{桁本数} \times 1.5$$

2. 移動式クレーンは賃料を標準とする。

3. 移動式クレーンの供用日数の欄 (※D') は運転日数であり、D' = 桁本数とする。

4. 供用日数は少数点第 1 位を四捨五入し整数止めとする。

## 7. 単価表

## (1) 桁 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.1
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
PC ケーブル		kg		(表 5.1)×単位質量
諸雑費		式	1	表 4.2
計				

## (2) 機械経費

名称	規格	単位	数量	摘要
移動式クレーン	油圧伸縮ジブ型 各種	日	D'	表 6.1
緊張ジャッキ・ポンプ		組・日	2×D	〃
諸雑費		式	1	
計				

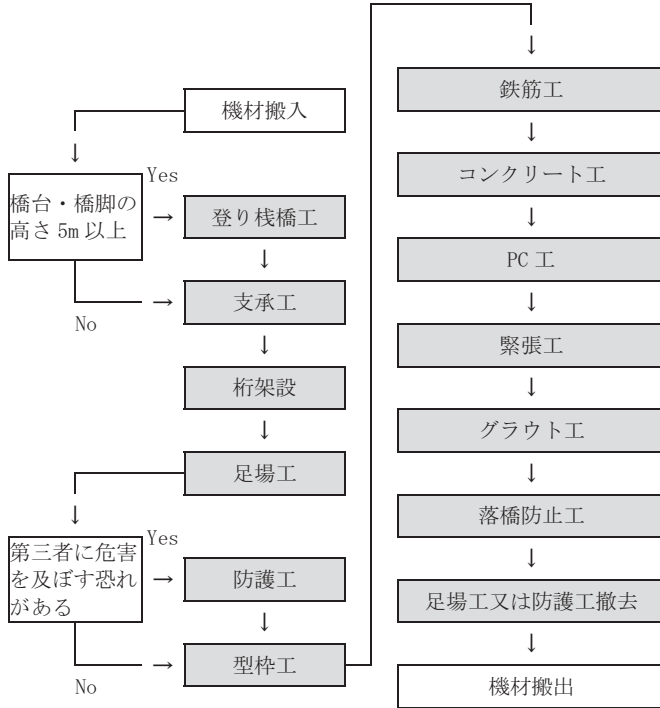
## 9) PC 橋架設工

### 1. 適用範囲

本資料は、プレストレスコンクリート桁 [A 又は B 活荷重桁] (プレテンション桁及びポストテンション桁) の架設及び横組に適用する。なお、本資料は標準的な架設条件を前提としているので、特殊な架設条件の場合又は本資料による架設工法によらない場合は架設設計のうえ別途考慮する。

### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. トラッククレーンによる架設

3-1 適用範囲

トラッククレーンによるプレテンション桁及び桁質量160t未満のポストテンション桁の架設工事に適用する。

なお、本資料はA又はB活荷重桁に適用する。

3-2 トラッククレーンによる架設歩掛

表 3.1 トラッククレーンによる橋梁下からのPC桁架設歩掛（プレテンション桁）

桁の種類	桁1本当りの桁質量	編成人員（人/日）			トラッククレーン 規格×台数 油圧伸縮ジブ型	1日当り 桁架設本数 （本/日）			
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員					
プレテンション PC単純T桁橋	BG-18 (17.9t) BG-19 (18.9t)	1	6	4	100t吊×1台	9			
	BG-20 (21.5t) BG-21 (22.5t)					8			
	BG-22 (25.3t) BG-23 (26.4t)				8				
	BG-24 (29.4t)				6				
プレテンション PC単純床版橋	BS-5 (2.9t)	1	6	4	100t吊×1台	19			
	BS-6 (3.5t)					17			
	BS-7 (4.6t)					15			
	BS-8 (5.3t)					14			
	BS-9 (6.7t)					14			
	BS-10 (7.5t)					13			
	BS-11 (9.1t)					12			
	BS-12 (7.9t) BS-13 (8.5t)					13			
	BS-14 (9.7t) BS-15 (11.0t) BS-16 (11.7t)					12			
	BS-17 (13.0t) BS-18 (14.3t) BS-19 (16.2t) BS-20 (17.8t) BS-21 (19.4t) BS-22 (21.9t)					11			
	BS-23 (23.9t) BS-24 (25.7t)					11			
									120t吊×1台

表 3.2 トラッククレーンによる橋梁下からのPC桁架設歩掛（ポストテンション桁）

桁の種類	桁1本当りの桁質量	編成人員（人/日）			トラッククレーン 規格×台数 油圧伸縮ジブ型	1日当り 桁架設質量 （t/日）
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員		
ポストテンション 桁	35t/本～ 60t/本未満	1	8	5	120t吊×2台	225
	60t/本～ 100t/本未満				160t吊×2台	260
	100t/本～ 160t/本未満				200t吊×2台	290

表 3.3 トラッククレーンによる橋台背面からの PC 桁架設歩掛（プレテンション桁）

桁の種類	桁 1 本当りの 桁質量	編成人員（人/日）			トラッククレーン 規格×台数 油圧伸縮ジブ型	1 日当り 桁架設本数 （本/日）				
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員						
プレテンション PC 単純 T 桁橋	BG-18 (17.9t) BG-19 (18.9t) BG-20 (21.5t) BG-21 (22.5t)	1	6	4	160t 吊×1 台	9				
	BG-22 (25.3t)					8				
	BG-23 (26.4t) BG-24 (29.4t)				200t 吊×1 台	8				
	プレテンション PC 単純床版橋				BS-5 (2.9t)	1	6	4	100t 吊×1 台	21
					BS-6 (3.5t)					18
BS-7 (4.6t) BS-8 (5.3t)		16								
BS-9 (6.7t)		15								
BS-10 (7.5t)		14								
BS-11 (9.1t)		13								
BS-12 (7.9t) BS-13 (8.5t)		14								
BS-14 (9.7t) BS-15 (11.0t) BS-16 (11.7t)		120t 吊×1 台	13							
BS-17 (13.0t)			12							
BS-18 (14.3t) BS-19 (16.2t) BS-20 (17.8t) BS-21 (19.4t) BS-22 (21.9t)			160t 吊×1 台	12						
BS-23 (23.9t)		11								
BS-24 (25.7t)		200t 吊×1 台	11							

- (注) 1. 歩掛は、現場まで搬入されたトラッククレーンにより桁運搬車又は仮置き場から直接吊上げ、所定の位置に架設出来る場合のものであり、架設現場までの小運搬（2次運搬）を伴う場合は、小運搬作業の歩掛を別途計上する。
2. トラッククレーン、トレーラ等の運搬路及び足場の整理に要する費用が必要な場合は、別途計上する。
3. 歩掛は架設高さ 10m 程度、作業半径は橋梁下からの架設の場合は 10m 程度、橋台上背面からの架設の場合は 8~18m 程度であり、現場条件により架設用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、現場条件に適した規格のトラッククレーンを選定する。
4. トラッククレーンは、賃料とする。
5. A 又は B 活荷重桁の架設においては、型枠及び桁下足場の支持方法は、インサート及びボルトによるものとする。
6. 桁 1 本当りの質量において該当質量がない場合は、1 ランク上の質量区分を適用する。（なお、上表の桁の規格は参考として B 活荷重桁を記載したものである。）
7. 架設工具損料は計上しない。



3-3 重量台車による桁小運搬

製作場又は、桁仮置き場から架設地点まで、軌道により重量台車で小運搬する作業に適用する。

3-3-1 桁小運搬配置人員及び小運搬質量

表 3.4 重量台車による小運搬歩掛 (1日当たり)

PC 桁 1 本当りの質量	1 日当り 小運搬質量 (t/日)	編成人員 (人)		
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
35～60t 未満	225	1	8	5
60～100t 未満	260			
100～160t 未満	290			

(注) 桁の運搬は 200m 程度としている。200m を超える場合又は方向転換を行う場合は、別途考慮する。

3-3-2 軌道工

軌道の敷設撤去に係る歩掛は 4-5 軌道設置・撤去歩掛によるものとする。

3-3-3 電力料等消費量

- (1) 1 日当り 3 時間とする。
- (2) 横取り引出し設備の規格

表 3.5 横取り引出し設備規格

PC 桁 1 本当り質量 (t)	横取り引出し設備規格	電力消費量	発動発電機の規格
35～60t 未満	60t 以下 [ ウインチ複胴開放式 3t22kW 重量台車 30t×2 ]	6.7kWh/h	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第 1 次基準値) 37/45kVA
60～100t 未満	100t 以下 [ ウインチ複胴開放式 3t22kW 重量台車 60t×2 ]	6.7kWh/h	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第 1 次基準値) 37/45kVA
100～160t 未満	160t 以下 [ ウインチ複胴開放式 4t30kW 重量台車 80t×2 ]	9.2kWh/h	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第 1 次基準値) 100/125kVA

(注) 電気設備に発動発電機を使用する場合は特殊作業員を 1 人/日を計上する。

3-3-4 機械器具損料

- (1) 横取り引出し設備、軌道設備 (30kg/m) , 架設工具については、「建設機械等損料算定表 (鋼橋・PC 橋架設用仮設備機器)」により供用日当り損料を計上する。

供用日数は次式により求める。

$$\text{供用日数} = \text{小運搬日数} \times \text{供用日数率}$$

- (注) 1. 供用日数率=1.5
- 2. 架設工具は、供用日当り 5,540 円計上する。

- (2) 発動発電機を使用する場合は「建設機械等損料算定表 (鋼橋・PC 橋架設用仮設備機器)」により小運搬日数について運転日当り損料を別途計上する。

3-4 特殊トレーラによる桁小運搬

製作場又は、桁仮置き場から架設地点まで、特殊トレーラにより、小運搬する作業に適用する。

3-4-1 桁小運搬配置人員及び小運搬質量

表 3.6 特殊トレーラによる桁小運搬歩掛 (1 日当り)

PC 桁 1 本当り質量 (t)	トラッククレーン規格・台数	1 日当り 小運搬質量 (t/日)	編成人員 (人)		
			橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
35～60t 未満	油圧伸縮ジブ型 120t 吊×2	225	1	4	3
60～100t 未満	油圧伸縮ジブ型 160t 吊×2	260			
100～160t 未満	油圧伸縮ジブ型 200t 吊×2	290			

- (注) 1. 歩掛は、作業半径 10m 程度の場合であり、現場条件により積込用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、別途積算する。
2. トラッククレーンは、賃料とする。
3. 桁小運搬日数は、桁架設日数に同じとする。
4. 特殊トレーラ
- a. 特殊トレーラの所要台数は 1 台を標準とし、積込本数は 1 本とする。
  - b. 特殊トレーラは、「一般区域貨物自動車運送事業運賃料金表」の「時間制運転率表」を適用するものとし、金額の±10%の範囲での増減運用は、一般の場合は、適用しないものとする。なお、料金表の適用地域、及び運賃の割増は、「第 I 編第 2 章工事費の積算 2) 間接工事費」によるものとする。ただし、諸料金(車輛留置料、地区割増料)については、計上しない。

4. 架設桁による架設

4-1 適用範囲

架設桁（下路式 1 組桁，上路式 1 組桁）によるポストテンション桁（支間長 20～45m）の架設工事に適用する。

4-2 架設桁によるポストテンション桁架設歩掛

架設桁によるポストテンション桁架設歩掛は，次表を標準とする。

表 4.1 架設桁によるポストテンション桁架設歩掛

支間 (m)	20m 以上～35m 未満	35m 以上～45m 以下	編成人員 (人/日)		
			橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
1 日当り架設質量 (t)	57	75	1	6	4

- (注) 1. 上表は，桁製作場又は桁仮置き場から横取り，台車積み架設場まで桁を引出し（200m まで），架設，横取り及び据付けまでの一連作業の場合である。  
 2. 重量台車に積込む方法として横取装置を標準とするが，地形等の関係で別に門形クレーン，ケーブル等を必要とする場合は，別途考慮する。  
 3. 桁の運搬に際し，直接距離 200m までとしているが，桁の方向変え等を行う場合は別途考慮する。  
 4. プレキャストセグメント桁の場合は 1 日当り架設質量を 33% 増すものとする。

4-3 架設機械据付・解体歩掛

架設機械据付・解体歩掛は，次表を標準とする。

表 4.2 架設機械据付・解体歩掛

支間 (m)	20m 以上	25m 以上	30m 以上	35m 以上	40m 以上	編成人員 (人/日)		
	～ 25m 未満	～ 30m 未満	～ 35m 未満	～ 40m 未満	～ 45m 以下			
据付・解体日数 (日)	9.5	11	13.5	15.5	17.5	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
ラフテレーンクレーン 実作業日数 (日)	5.5	6.5	8	9.5	10	1	6	3

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは，排出ガス対策型(第 2 次基準値)油圧伸縮ジブ型 50t 吊を標準とする。  
 2. 上表は，架設桁の据付・解体，トラワイヤの取付け，取外し及びウインチの据付・解体作業の場合である。

4-4 架設機械移動歩掛

架設機械移動 1 回当り歩掛は，次表を標準とする。

表 4.3 架設機械移動 1 回当り歩掛

支間 (m)	20m 以上～45m 以下	編成人員 (人/回)		
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
移動日数 (日)	3.5	2	16	10

(注) 上表は，架設桁を次の支間に移動する作業の場合である。

4-5 軌道設置・撤去歩掛

軌道の設置・撤去歩掛は，次表を標準とする。

表 4.4 軌道の設置・撤去歩掛

(1 軌道 10m 当り)

	橋梁世話役 (人)	橋梁特殊工 (人)	普通作業員 (人)
30kg/m レール	0.2	0.9	0.9

- (注) 1. 上表は，主桁引出し用軌道の設置・撤去作業である。  
 2. 軌道 (30kg/m) の 100m 設置・撤去所要日数は，3.5 日である。

## 4-6 その他

## 4-6-1 アンカー工

アンカー工は、架設設計により計上する。なお、アンカーに既設構造物が使用出来る場合は、既設構造物に埋設するアンカーフレーム費用（材料費、製作費、復旧費）を別途計上する。

アンカーを土中に設置する場合は、次表を標準とする。

表 4.5 アンカー1箇所当り作業人員及び使用材料 (1箇所当り)

編成人員 (人)			使用材料	
橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	枕木 (本)	ワイヤ (m)
			2.1×0.14×0.2m	4号品 φ16A種
0.2	0.4	0.9	3	15

(注) 使用材料は全損とする。

## 4-6-2 架設機械器具経費

## (1) 機械器具費

架設機械（架設桁、桁吊装置、横取り・引出し、軌道）器具費は、「請負工事機械経費積算要領」による。供用日数は、次式による。

$$\text{供用日数} = (\text{架設工日数} + \text{架設桁据付・解体日数} + \text{架設桁移動日数}) \times \text{供用日数率}$$

$$\text{供用日数率} = 1.5$$

供用日数が、架設時期、地域条件等により上記により難しい場合は、別途考慮する。

## (2) 諸雑費

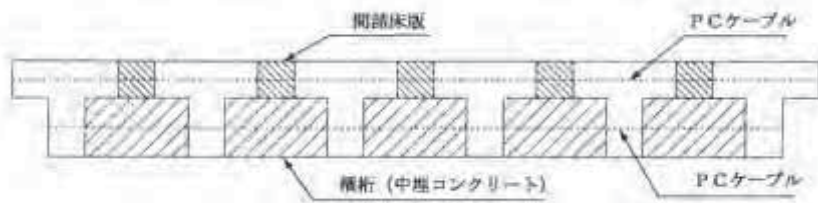
諸雑費は、架設工具等の費用及び電力に関する経費等であり、架設機械器具費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.6 諸雑費率 (%)

ポストテンション桁	11
プレキャストセグメント桁	8

5. 横組工

横組工とは、横桁中埋コンクリート、間詰床版及び横締の一連作業で、その内訳は次のとおりである。



5-1 鉄筋工

5-1-1 鉄筋加工・組立

(1) 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛は、次表を標準とする。

表 5.1 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛 (1t 当り)

編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
土木一般世話役	鉄筋工	普通作業員	
0.7	3.6	1.5	6

- (注) 1. 歩掛は、場内運搬を含む。  
 2. 諸雑費は、結束線、溶接棒及び電力に関する経費等であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-1-2 鉄筋使用量

鉄筋の使用量は次式とし、スクラップ控除はしない。  
 使用量 (t) = 設計量 (t) × (1+K) ……………式 5.1

表 5.2 ロス率 (K)

ロス率	+0.06
-----	-------

5-2 コンクリート工

横組の型枠及びコンクリート作業に適用し、PC 合成桁橋の床版は含まない。

5-2-1 打設工法

打設工法はコンクリートポンプ車による打設を標準とする。

5-2-2 コンクリートポンプ車の規格

コンクリートポンプ車の規格は、次表を標準とする。

表 5.3 コンクリートポンプ車の規格

機械名	規格
コンクリートポンプ車	ブーム式 55~60m <sup>3</sup> /h

5-2-3 コンクリート工歩掛

型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。

表 5.4 コンクリート工歩掛 (10m<sup>3</sup> 当り)

桁区分	編成人員 (人)				諸雑費率 (%)
	橋梁世話役	特殊作業員	型枠工	普通作業員	
プレテンション T 桁 ポストテンション桁	3.4	1.6	13.5	12.0 (9.9)	8 (7)
プレテンション床版桁	0.8	1.6	2.5	5.4 (3.3)	12 (6)

- (注) 1. コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート 10m<sup>3</sup> 当り 1.5 時間とする。  
 2. 歩掛はブーム打設を標準としているが困難な場合、又は現場条件により配管打設が適する場合は、上記歩掛にて配管打設も適用出来る。なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は 55m<sup>3</sup>/h とする。  
 3. 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務 (30m 程度) を含むのとし、30m を超える場合は「第 II 編 第 4 章コンクリート 1) コンクリート工」による。  
 4. ブーム打設は打設高さ 15m 以下、投入水平距離 15m 以下の場合に適用する。  
 5. 1 日当り打設量は 40m<sup>3</sup> を標準とする。  
 6. 諸雑費は、型枠用材料、剥離材、養生マット及び電力に関する経費等であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 7. 養生については、養生覆材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。  
 保温養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は、( ) 書の値とし、養生費用は別途計上する。

5-2-4 コンクリート使用量

コンクリート使用量は、次式による。

使用量 (m<sup>3</sup>) = 設計量 (m<sup>3</sup>) × (1+K) ……………式 5.2

表 5.5 ロス率 (K)

ロス率	+0.04
-----	-------

5-3 PC 工

5-3-1 PC 工歩掛

ケーブルの切断，シースの組立，ケーブルの挿入，整正，グラウト注入歩掛は，次表を標準とする。

表 5.6 PC 工歩掛 (ケーブル 100m 当り)

桁種類	種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
		PC ケーブル	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	
プレテンション桁	シングルストランドシステム	390kN (40t) 型 (1S17.8)	0.7	2.2	1.3	16
		450kN (50t) 型 (1S19.3)				
		570kN (60t) 型 (1S21.8)				
ポストテンション桁	マルチワイヤシステム	700kN (70t) 型 (12W7A)	0.7	2.6	1.6	15
	シングルストランドシステム	390kN (40t) 型 (1S17.8)	0.7	3.3	1.9	11
		450kN (50t) 型 (1S19.3)				
		570kN (60t) 型 (1S21.8)				

- (注) 1. ケーブル延長は，定着装置内面間の実延長とする。  
 2. 諸雑費は，鋼製シーソ，グラウト材料，シール材料及び電力に関する経費等であり，労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3-2 PC ケーブル使用量

PC ケーブルの使用量は，次式による。

$$\text{使用量 (m)} = \text{設計量 (m)} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{式 5.3}$$

表 5.7 ロス率 (K)

ロス率	+0.06
-----	-------

(注) 上表のロス率は PC ケーブルの切断ロス，つかみ代等の補正でありスクラップ控除はしない。

5-4 緊張工

5-4-1 緊張工歩掛

定着装置の設置，緊張，モルタルあと埋め作業の歩掛は，次表を標準とする。

表 5.8 緊張工歩掛 (10 ケーブル当り)

種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
	PC ケーブル	橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員	
マルチワイヤシステム	700kN (70t) 型 (12W7A)	0.3	1.6	0.7	4
シングルストランドシステム	390kN (40t) 型 (1S17.8)	0.4	1.2	0.6	
	450kN (50t) 型 (1S19.3)				
	570kN (60t) 型 (1S21.8)				

- (注) 1. 緊張は片締めを標準とする。  
 2. 諸雑費は電力に関する経費等であり，労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-4-2 使用材料

使用材料として，定着装置を別途計上する。

5-5 足場工及び防護工

5-5-1 足場工

(1) 桁下足場

桁下足場工は、パイプ吊足場を標準とし、足場工費は次式による。  
 なお、工費には側部（朝顔）などの費用も含まれている。

$$\text{足場工費} = (S + Ny) \times A \text{ (円)}$$

S : 損料係数 (表 5.9) (表 5.10)

X : 足場を設置している月数 (月)

桁下足場の設置月数は、2 箇月を標準とする。

N : 歩掛係数 (表 5.9) (表 5.10)

y : 橋梁特殊工単価 (円/人)

A : 橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L \text{ (m}^2\text{)}$$

W : 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L : 橋長 (m)

損料係数 (S) , 歩掛係数 (N)

各係数は、次表を標準とする。

表 5.9 ポストテンション桁用足場損料係数 (S) , 歩掛係数 (N)

桁高 (m) \ 係数	S		N	
	両側朝顔	片側朝顔	両側朝顔	片側朝顔
1.1 ≤ H < 1.5	350	330	0.10	0.09
1.5 ≤ H	370	345	0.12	0.11

表 5.10 プレテンション桁用足場損料係数 (S) , 歩掛係数 (N)

	S	N
両側朝顔	320	0.098
片側朝顔	310	0.094

(2) 側部足場

側部足場（スラブ桁橋）の足場工費は、次式による。

$$\text{足場工費} = (585X + 0.186y) \times L \text{ (円)}$$

X : 足場を設置している月数 (月)

側部足場（スラブ橋桁）の設置月数は 1 箇月を標準とする。

y : 橋梁特殊工単価 (円/人)

L : 足場総延長 (m)

5-5-2 防護工

防護工は、桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置し、5-5-1(1)で求めた桁下足場工費に別途計上する。

なお、工費には、側面防護（朝顔）の費用も含む。

$$\text{防護工費(両側朝顔)} = (115X + 0.05y) \times A$$

$$\text{防護工費(片側朝顔)} = (105X + 0.04y) \times A$$

X : 防護工設置月数であり、足場設置月数と同じとする。 (月)

y : 橋梁特殊工単価 (円/人)

A : 防護工必要面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L$$

W : 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L : 防護工必要長 (m)

5-5-3 登り棧橋工

登り棧橋工は、「第 IV 編 第 7 章 3)鋼橋架設工」による。



6. 支承工

6-1 機種を選定

支承据付けに使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表 6.1 機種を選定

機械名	規格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 2. ゴム支承 (B タイプ) のみ上記機械を計上する。また現場条件より、これにより難しい場合は別途選定する。

6-2 施工歩掛

ゴム支承据付けにかかる施工歩掛は、次表を標準とする。

表 6.2 ゴム支承据付歩掛

支承種類	規格	1 日当り 施工量	編成人員 (人/日)		
			橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
ゴム支承 A タイプ (プレテンション床版橋用簡易タイプ)		10m	1	2	2
ゴム支承 A タイプ (パッドタイプ)	60kg/個以下	9 個			
ゴム支承 B タイプ		3 個			

- (注) 1. 上記歩掛には、アンカーバー、アンカーキャップ、スパイラル筋等の据付け、はつり工、無収縮モルタル充填を含む。  
 2. 無収縮モルタル材料は、別途計上する。

6-3 支承モルタル

支承モルタルは、無収縮モルタル (セメント系) とし、プレミックス製品を標準とする。

表 6.3 無収縮モルタルの配合

(1m<sup>3</sup> 当り)

名称	規格	単位	数量
無収縮剤	セメント系プレミックスタイプ	kg	1,875
水		L	338

(注) 上表にはロスを含む。

6-4 諸雑費

諸雑費は、支承の据付けに使用する工具等損料及び電力に関する経費等であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6.4 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4
------	---

7. 落橋防止工

7-1 機種を選定

落橋防止装置据付けに使用する機械の機種，規格は次表を標準とする。

表 7.1 機種を選定

機械名	規格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは，賃料とする。  
2. 現場条件より，これにより難しい場合は別途選定する。

7-2 施工歩掛

PC 鋼棒又はケーブルによって連結される落橋防止装置据付けにかかる施工歩掛は，次表を標準とする。

表 7.2 落橋防止装置据付け歩掛

種類	1 日当り施工量	編成人員 (人/日)		
		橋梁世話役	橋梁特殊工	普通作業員
PC (鋼棒・ケーブル) タイプ	6 組	1	3	1

7-3 諸雑費

諸雑費は，落橋防止装置据付けに使用する工具等損料及び電力に関する経費等であり，労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 7.3 諸雑费率 (%)

諸雑费率	3
------	---

8. 機械器具損料

機械器具損料は，次表を標準とする。

表 8.1 機械器具損料

(1 工事当り)

工種	器具名	規格	単位	数量	供用日数	摘要
横組工	緊張ジャッキ・ポンプ		組	1	H	

(注)

$$H = \frac{n}{N} \times K \times 1.5$$

K : 1 工事の径間数  
n : 1 径間片締め本数  
N : 1 日当りの片締め本数

N : 1 日当りの片締め本数は，シングルストランドシステムの場合 39 本，マルチワイヤシステムの場合 31 本を標準とする。

9. 架設工程割合

(1) 架設工程の割合

架設桁の架設工程の割合は次表を標準とし、架設条件等により日当り架設能力を補正するものとする。

表 9.1 架設桁の架設工程割合

工程	時間の率 (%)
1 桁ジャッキアップ	9.4
2 桁横取り	12.5
3 重量台車上にジャッキおろし	3.1
4 重量台車による運搬	6.3
5 桁前部を架設桁一吊枠に盛かえ	15.6
6 桁後部を架設桁一吊枠に盛かえ	12.5
7 吊おろし	3.1
8 横取り	12.5
9 据付け	25.0
計	100.0

(注) プレキャストセグメント桁の架設において、上記 1~3 の作業が主桁組立工に含まれるので、プレキャストセグメント桁を架設桁で架設する場合は、次の補正率を日当り架設能力に乗じるものとする。  
補正率=1.33 [100/ (100-9.4-12.5-3.1) ]

10. 単価表・内訳書

(1) PC 桁材料費 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
PC 桁		本	1	
諸雑費		式	1	
計				

(2) トラッククレーンによる PC 桁架設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.1, 表 3.2, 表 3.3
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 〇〇t 吊	日		〃
諸雑費		式		
計 【S3320】 【S3322】				

(3) 小運搬（重量台車による方法）内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
台車による小運搬費		本		
軌道工		m		
機械器具損料		供用日		

(注) 機械器具損料は、横取り引出し設備、軌条設備、架設用工具について計上する。

## (4) 重量台車による小運搬費 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.4
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
特殊作業員		〃		表 3.5(必要に応じ計上)
発動発電機	排出ガス対策型 (第 1 次基準値)	日		〃(必要に応じ計上)
電力料		kWH		〃(必要に応じ計上)
諸雑費		式	1	
計				

## (5) 機械器具損料供用 1 日当り単価表 (重量台車による桁小運搬)

名称	規格	単位	数量	摘要
横取引出し設備損料		供用日	1	
軌道設備損料		供用日・m		必要量を計上
橋梁用架設工具損料		供用日	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (6) 小運搬費 (特殊トレーラーによる方法) 内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊トレーラーによる小運搬費		本		
特殊トレーラー		台		

## (7) 特殊トレーラーによる小運搬費 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 3.6 1×10 本×W/N
橋梁特殊工		〃		〃 4×10 本×W/N
普通作業員		〃		〃 3×10 本×W/N
トラッククレーン賃料	〇〇t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) W : 桁 1 本当り質量  
N : 1 日当り小運搬質量

## (8) ネームプレート (PC 橋用) 1 枚当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋歴板	PC 橋用	枚	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (9) 主桁架設工内訳書

細別	規格	単位	数量	摘要
主桁架設		本		
架設機械据付解体		式	1	
架設機械移動		回		
軌道設置撤去		m		
架設機械器具経費		式	1	
アンカー工		箇所		
諸雑費		式	1	
計				

## (10) 主桁架設 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.1 1×10 本×W/N
橋梁特殊工		〃		〃 6×10 本×W/N
普通作業員		〃		〃 4×10 本×W/N
諸雑費		式	1	
計【S3070001】				

(注) W : 桁 1 本当り質量

N : 1 日当り架設質量

## (11) 架設機械据付・解体 1 式当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.2
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計【S3070003】				

## (12) 架設機械移動 1 回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.3
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	
計【S3070005】				

## (13) 軌道設置撤去 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.4
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	
計【S3070007】				

## (14) アンカー工 1 箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 4.5
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
枕木	2.1×0.14×0.2m	本		〃 全損
ワイヤ	4号品 φ16A種	m		〃 〃
諸雑費		式	1	
計【S3070009】				

## (15) 架設機械器具経費 1 供用日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
架設桁設備		供用日	1	4-6-2による
桁吊装置設備		〃	1	〃
横取・引出し設備		〃	1	〃
軌道設備		〃	1	〃
諸雑費		式	1	表 4.6
計【S3070011】				

## (16) 横組工内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
鉄筋工		t		
コンクリート工		m <sup>3</sup>		型枠工，養生工含む
PC工		m		グラウト工含む
緊張工		ケーブル		
足場工		式		
防護工		〃		
支承据付工		m・個		
落橋防止工		個		
計				

## (17) 鉄筋工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 5.1
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
鉄筋		t		設計量×(1+ロス率)表 5.2
諸雑費		式	1	表 5.1
計【S3230】				

(18) コンクリート 10m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.4
特殊作業員		〃		〃
型枠工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
生コンクリート		m <sup>3</sup>		設計量×(1+ロス率)表 5.5
コンクリートポンプ車運転		h		表 5.4 (注) 2
圧送管組立・撤去		式	1	(19)単価表必要に応じて計上
特別な養生工		〃	1	必要に応じて計上
諸雑費		〃	1	表 5.4
計 【S3234】				

(19) 圧送管組立・撤去費 10m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.46×L/40	
諸雑費		式	1	
計				

(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。

## (20) PC 工ケーブル 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.6
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
PC ケーブル		kg		設計量×(1+ロス率)×単位質量 表 5.7
諸雑費		式	1	表 5.6
計 【S3240】				

## (21) 緊張工 10 ケーブル当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人		表 5.8
橋梁特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
定着装置	緊張側 (緊張用)	組	10	
定着装置	固定側 (緊張用又は固定用)	〃	10	
諸雑費		式	1	表 5.8
計 【S3316】				

(22) 桁下足場工 (ポストテンション・プレテンション桁) 1m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人		5-5-1(1)による
足場材損料		月		〃
諸雑費		式	1	
計 【S3247】 【S3248】				

## (23) 側部足場工 (スラブ桁橋) 1m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人		5-5-1(2)による
足場材損料		月		〃
諸雑費		式	1	
計【S3249】				

(24) 防護工 (PC 桁橋) 1m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人		5-5-2による
防護材損料		月		〃
諸雑費		式	1	
計【S3250】				

## (25) ゴム支承 A タイプ (プレテンション床版橋用簡易タイプ) 据付け 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 6.2
橋梁特殊工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
ゴム支承		m <sup>2</sup>		支承幅(m)×10m
無収縮モルタル		m <sup>3</sup>		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 6.4
計【S3294】				

(注) N : 日当り施工数量 (m/日)

## (26) ゴム支承 A タイプ (パッドタイプ) 据付け 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 6.2
橋梁特殊工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
ゴム支承		個	10	
無収縮モルタル		m <sup>3</sup>		必要数量計上
諸雑費		式	1	表 6.4
計【S3294】				

(注) N : 日当り施工数量 (個/日)



## (27) ゴム支承 B タイプ据付け 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 6.2
橋梁特殊工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
ゴム支承		個	10	
無収縮モルタル		m <sup>3</sup>		必要数量計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	$\frac{10}{N}$	表 6.1
諸雑費		式	1	表 6.4
計【S3294】				

(注) N: 日当り施工数量 (個/日)

## (28) ジョイントプロテクター (材料費) 1 組当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ジョイントプロテクター		組	1	
諸雑費		式	1	
計【S3070013】				

## (29) 変位制限装置 (材料費) 1 組当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
変位制限装置		組	1	
諸雑費		式	1	
計【S3070015】				

## (30) 落橋防止装置据付け 10 組当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 7.2
橋梁特殊工		〃	$\frac{10}{N} \times 3$	〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	$\frac{10}{N}$	表 7.1
落橋防止装置		組	10	
諸雑費		式	1	表 7.3
計【S3244】				

(注) N: 日当り施工数量 (組/日)

## (31) 機械器具損料 1 工事当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
緊張ジャッキ・ポンプ		供用日		表 8.1
諸雑費		式	1	
計 【S3246】				

## (32) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 37/45kVA ディーゼルエンジン駆動 100/125kVA	機-12	運転時間 3.0/日
コンクリートポンプ車	ブーム式 55~60m <sup>3</sup> /h 配管式 55m <sup>3</sup> /h	機-3	機械損料 1 →コンクリートポンプ車 (ブーム式 55~60m <sup>3</sup> /h, 配管式 55m <sup>3</sup> /h) 運転労務数量 →0.14
			機械損料 2 →コンクリート圧送管 (径 125mm) 単位 →m・h 数量 →L×1h

(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 30mを超えた部分の圧送管延長とする。